

どうする？

これからの公共施設

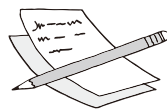
このコーナーではこれまで、本市の公共施設等の現状について、建設後30年以上経過している建物が全体の50%を超えていることや、市民一人当たりの公共施設面積が全道の都市で5番目に大きく、人口に対する公共施設が多いことなどをお知らせしてきました。

こうした現状を踏まえ、市では、市民の皆さんに安心して公共施設等を利用していただけるよう、老朽化対策をはじめとした改修や更新と合わせて、健全な財政運営を維持するために、施設の統廃合による縮減策や長寿命化による将来コストの軽減策など、中長期の具体的な取り組みをまとめた実行計画の策定に向けて検討を進めています。

実行計画の策定にあたり、公共施設等の今後のあり方について、市民の皆さんの考え方を参考とするため、アンケート調査を行っています。

広報あしべつ10月号と同時に配布している「公共施設のあり方に関するアンケート」用紙にご記入のうえ、ファクシミリ（22-9696）または、次の最寄りの施設に設置しているアンケート回収箱に投函してください。

実行計画策定のための アンケート調査に ご協力をお願いします



回収箱設置場所は次のとおりです。

- 市役所1階「市民参加と協働コーナー」
 - 総合福祉センター
 - 青年センター
 - 図書館
 - 市立荻別病院
 - なまこ山総合体育館
- ※これらの施設にはアンケート用紙もあります。
- また、市公式ホームページからも回答できます。
- アンケート実施期間は、10月20日（木）までとなっておりますので、皆さんのご協力をお願いいたします。

（契約管財係）

市長日記

No. 14

去る8月20日から23日にかけて、相次ぐ台風による災害が発生しました。被害にあわれた皆様には心からお見舞い申し上げます。この4日間の総降水量は210mmに達しており、特に20日の1日の降水量は、8月の1か月分の平均値を超える153mmを記録しました。

これに伴い、市の対応といたしましては、20日午後には災害対策本部を設置するとともに、総合福祉センターに避難所を開設し、その後、市内各地域5か所に避難所を順次開設しました。その後、翌21日の朝には天候が回復したことから、避難勧告の解除及び避難所を閉鎖したところです。

しかし、22日には、新たな台風が北海道に接近し、洪水警報及び大雨警報が発表され、再び被害の危険性が高まったことから、午前中に再度、総合福祉センターに避難所を開設し、対応を図ったところです。

また、9月16日現在での市の被害状況ではありますが、農業被害及び土木被害を中心に発生しました。農業被害の多くは、新城区、黄金地区、常磐地区、福住地区及び旭町地区に集中し、農地への冠水や土砂流入により被害を受け、被害戸数は65戸、被害面積は、水稻を中心に約9918坪となっています。農業施設被害については、用水の決壊、土砂埋没、取水口の損壊被害がありました。土木被害については、市道では、砂利の洗掘及び側溝埋没が7地区33路線、2万4170坪、砂利の散乱及び法面崩壊が7地区14路線、730坪となっています。河川被害については、河岸損傷等が7地区14河川、1150坪となっています。

市におきましては、直ちに被災した市道や農業用施設の復旧を行ったところであり、さらに被害の状況を精査し、災害の復旧に全力であたつてまいります。

芦別市長 今野

ひろむ 宏